

※「はらまち九条の会」ホームページ <http://www.haramachi9jo.net>

※「はらまち九条の会」は会員405名。超党派で会員を募集中です。年会費千円。



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.125

2010(平成22)年2月22日(月)発行

＜1732年2月22日は、アメリカ合衆国初代大統領ワシントンの誕生日＞
幼少の時、桜の木を切ったことを正直に答えたワシントンですが、1775年以来の独立戦争を指揮し、83年独立を達成。アメリカ建国の父。3選は民主制を妨げるとして、自ら2期8年で大統領を辞し、それがアメリカ大統領の任期の伝統となる。1799年67歳で死去。首都ワシントン、ワシントン州はじめ、多くの地がその名にちなんで名付けられている。



あの思い出の 懐かしの朝日座！

3月7日(日) 朝日座に行こう！

映画『いのちの山河』をみなさんとどうぞ！

「朝日座」は大正12年、関東大震災の年に開館

1923(大正12)年7月に開館した『朝日座』は、原町っ子にとって様々な思い出の残る懐かしい映画館です。大衆娯楽の殿堂、文化の普及の場として、映画上映のみならず、まだ市民会館のなかった時代、町の種々の催し物や学校の行事なども開催され、1991(平成3)年9月の閉館まで、約70年間原町の歴史とともに歩んできました。



「朝日座を楽しむ会」も発足

今では仙台からいわき間に残る唯一最後の映画館になりました。08年市民の有志により「朝日座を楽しむ会」(会長山城雅昭さん)が結成され、映画を見ると同時に、老朽化した建物ですが「朝日座」を街づくりの核にして活性化のため活用しようと、その活動が注目されています。

「朝日座を楽しむ会」では、3月20日(土)に相馬藩ゆかりの侍・丹下左膳の講演と、大友柳太朗・中村錦之助主演の『丹下左膳』2本上映会を開催。21日(日)にも上映会が開催される予定です。

「いのちの山河」も「朝日座」で開催のこだわり

映画『いのちの山河』が完成し、私たちはらまち・小高「九条の会」が上映会の検討を始めたとき、誰ともなく「あの朝日座で開催しよう」とすぐに決まりました。

『いのちの山河』上映会は3月7日(日)で、まだちょっと寒いかもしれませんが、みなさんお誘い合わせて、あの懐かしい「朝日座」で良い映画をどうぞご鑑賞ください。お近くの方々にも広く声をかけてみてください。

上映委員会一同、心よりお待ちしております。

「いのちの山河」上映会を成功させましょう！



全国でも稀有の一大記録集

▲2003年7月、元館主の布川雄幸さんが発行された『朝日座全記録』。

○内容は町の一映画館としての歴史の克明な記録と膨大な資料で、456ページもの大冊。全国にも例を見ない貴重な一大記録集です。

○前半は作家の二上英朗さんが「朝日座、わが青春の活動写真館」と題し、100ページにわたり朝日座の70年間の様々な軌跡を、綿密な調査の上で克明にまとめられています。

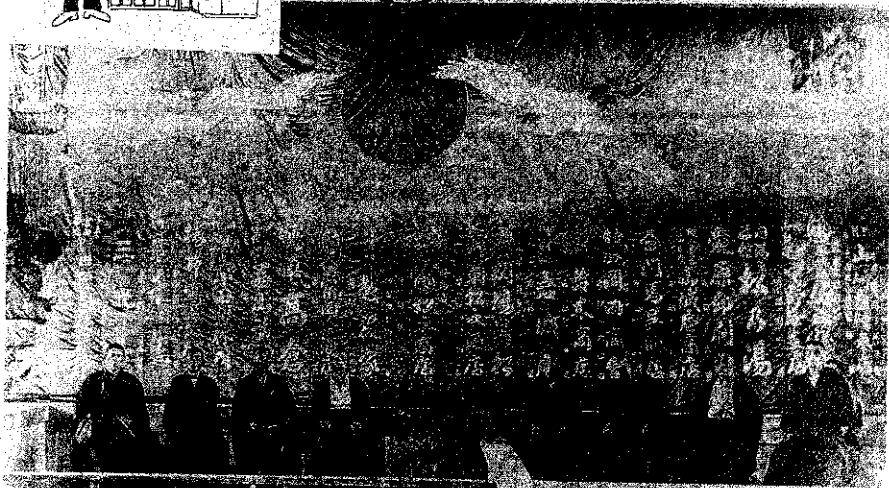
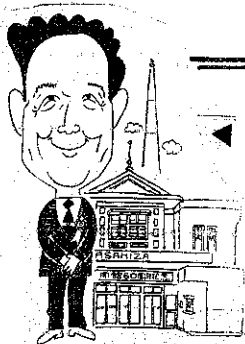
○後半は布川さんの記録で、1956(昭和31)年から1991(平成3)年の朝日座での上映番組のすべてがまとめられていて、圧倒されます。「ああ、あの時の映画だ」と思い出される方も多いことでしょう。

＜上のコピー＞表紙のカバー絵「朝日座閉館」は金井武さんが描かれたもので、カラー印刷でお見せできないのが残念です。(布川さんも金井さんも本会会員で、会報No.54、No.97に「戦争体験」を寄稿されています)

写真で見る「朝日座」

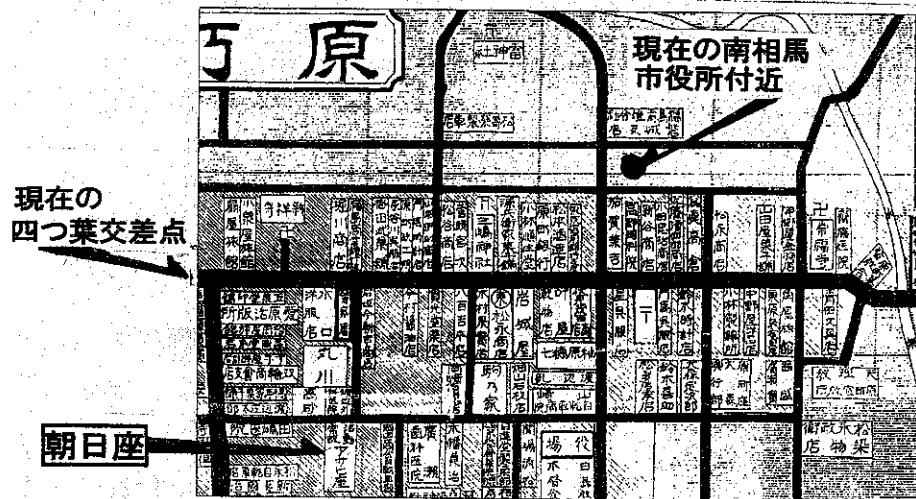
布川雄幸さん発行『朝日座全記録』より

◀「生まれ変わっても朝日座を守りたい」と話す
布川さんと朝日座。(画・鹿又 泰さん)



▲開館の頃は「旭座」、昭和27年から「朝日座」と改められ、昭和30年頃、柵席から椅子席に改装された。

▲大正12年開館の記念写真。舞台緞帳の刺繍の連名は、右からK.Y.山崎自転車店、木材商佐藤儀平、旅館・御料理中野屋支店、内湯・旅館松乃湯、愛原印刷所、婦人良薬・山城屋商店、門馬呉服店、合資会社岡田商店、鈴木商店、御料理岩城屋、関場清松、松永酒店、松永商店、御料理越後屋、富岡屋酒店、写真高倉、旅館・御料理西山旅館、小田製作所、桜井写真館、御料理千鳥、三光丸、藤田自転車店の名が読める。館内は柵席で、花道もあり、花道の下には奈落と呼ばれる薄暗い地下道があった。両側にも二階にも棧敷席がありました。



▲朝日座は大正12年7月2日に開館。2カ月後の9月1日の関東大震災で第一報を米国に打電した無線塔とともに原町のシンボルでした。

▲大正15年の商業地図。上が西、下が東になっていて、当時の本町の商店街。朝日座は「活動常設アサヒ座」と記されている。現在の本町や駅通りの町並みと比べると興味深い。



◀朝日座は単なる映画館ではなく、町の音楽会、学芸会、演説会、学校の映画教室なども開催された一大文化センターでした。朝日座前の“東一番町通り”は商店も軒を連ねいつも賑やかでした。

町のあちこちの映画の立て看板。最盛期には朝日座、原町映画劇場、セントラル劇場の三館があり、町民はどんな映画がいつ来るのか、楽しみに見ていた。▶

